

静岡市発達障害者支援センター2年間の実践報告と平成22年度の取り組みについて

平成22年7月

静岡市発達障害者支援センター所長 前田卿子

発達障害者支援センターの地域での役割と開設2年間の活動実践を振り返り、平成22年度の取り組みについて、報告します。

【活動実践】

- (1)平成21年4月～22年3月の1年間に、支援センターを利用した人の人数と回数は、相談支援が560人延べ809件で、その内訳は0～3歳66人、4～6歳112人、7～12歳の小学生195人、13～15歳の中学生32人、16～18歳の高校生15人、19歳以上123人、不明17人となっています。
- (2)発達支援は271人延べ970件となっています。
- (3)就労支援は15人延べ21回となっています。
- (4)診断された多くのケースが自閉症スペクトラムとなっています。
- (5)連携を図った事例としましては、保健福祉センターからの紹介32件、幼・保育園訪問支援延べ70件、学校訪問支援を延べ46件実施となっています。
- (6)研修会は、主催13回延べ1416人、共催8回延べ539人、出張22回1339人、合計延べ3294名参加していただきました。

【機関連携】

- (1)公私立保育士会と専門研修会
- (2)教育委員会とコーディネーター研修会および学校支援員専門研修会
- (3)保健福祉センターと1・6、3歳健診における発達障害児の早期発見・支援体制の研修会
- (4)児科医会と同上研修会
- (5)障害福祉課と発達障害者支援地域体制整備委員会開催
- (6)親の会と意見交換会／相談会／講演会
- (7)社会福祉協議会と放課後学童クラブ指導員研修会
- (8)障害福祉課主催地域支援会議出席
- (9)大学生ボランティアとグループソーシャルスキル訓練
- (10)静岡市こどもと家族の精神保健ネットワークと共催で講演会開催

【広報】

- (1)当支援センター紹介パンフレット10万部
- (2)「発達障害の理解と支援」支援者向け冊子6千部追加作成
- (3)ホームページ作成
- (4)年3回広報誌各3千部発行

【22年度の新規取り組み】

- (1)早期発見・支援では、1・6、3歳児健診関係者（保健師・小児科医師・心理士）の専門研修の充実
- (2)保健福祉センター：遊びの教室へスタッフ派遣
- (3)公立保育園コーディネーター研修会
- (4)保育園・幼稚園訪問相談会/研修会の充実

- (5) 学校支援：学校訪問相談会/研修会
- (6) 成人期支援：精神科／ハローワーク／生活・就労支援センター／大学との連携の強化
- (7) 体制整備委員会：支援ファイルの作成
- (8) ペアレントメンター養成研修会
- (9) 地域サポーターの養成と整備

【地域支援体制整備への取り組み】

平成22年度静岡市から委託を受けましたペアレントメンター・地域サポーター養成事業は、子どもの行動が気になり不安に思っていたり、診断されてすぐ療育機関と繋がっていなかったり、療育が始まっても育児や進路や将来の不安をお持ちのお母さんと児への支援事業です。傾聴と共感で話をお聴きして、地域のリソースの情報提供をする母親相談や、親の体験会で先輩の親の話聞く機会や、進路相談、育児相談などの親相談支援会を母親サポート事業として各区で開催していきたいと思います。保健師・保育士・言語聴覚士・心理士・教員・療育支援員などの支援者と親支援者が協力して、母親相談会や育児相談会や育児支援講話や遊び方教室や母親ストレスマネジメント研修会などを、開催していきたいと思います。

平成22年度ペアレントメンター・地域サポーター養成研修会は、第1回目、2回目は、地域としてどんな支援が出来るかを皆様と一緒に考える研修会を開催し、同時に地域での発達支援のためのリソース冊子を作成していく予定です。その研修会や広報を通して、地域支援ネットワークの構築と充実を計っていき、地域支援のエンパワーメントを高めていきたいと思います。

今後ともよろしくご協力頂けますようお願い申し上げます。